

平成20年度事業報告（ホームページ掲載用）

1. 総括

世界的な金融危機を発端とする景気の後退や、生活関連物価の高騰は、雇い止めや派遣切り等の雇用不安や生活不安を引き起こし、私たちの暮らしにさまざまな面で影響を及ぼしており、このような状況は今後も続くものと予想され、社会福祉の分野においても一段と厳しさを増し、支援を必要とする人達が一層増加してきています。

また、急速に進行している少子高齢化や核家族化、人口の減少等は、地域住民のコミュニケーションの希薄化や、暮らしをとりまく変化により地域社会における支えあいや助け合いの機能の衰退が大きな福祉課題となっています。

このような状況の中で、国においては、「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」の報告書が発表され、地域福祉の推進の重要性が大きく取り上げられ、これまで社会福祉協議会が活動を展開してきた地域福祉活動への期待がより高まると共に、「地域福祉の推進」を図る中心的な団体である社会福祉協議会についてもその責任と役割の大きさが報告されています。

こうした中で、本会は、地域福祉の中核的な団体として、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進することを使命とし、行政をはじめ、福祉関係機関や、団体、地域住民の皆さまと共に活動を展開してきました。

特に本年度は、役職員の資質向上を図るための研修会の開催や、合併後初めての京丹後市社会福祉大会の実施、組織運営の基盤となる部会体制の整備のほか、4月には本所を市弥栄庁舎内に移転し、本所と5支所とした新たな体制でのスタートとしました。合併5年目、そして、組織機構改革の1年目として一層の福祉活動の充実と住民福祉のニーズに密着した事業展開に努めました。

また、本会組織の運営をする上で、貴重な財源となっている会員の拡大による会費をはじめ、共同募金や歳末たすけあい運動は、急激な社会経済状況の悪化等により、目標額には到達しませんでした。皆様の深いご理解とご支援に深く感謝を致します。

一方、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるため、市が策定された「京丹後市地域福祉計画」と連動した本会活動の基本計画である「第1次地域福祉活動計画」が、本年度からスタートをしました。

この計画は本会の、「みんなでつくろう！一人ひとりが輝く ふれあいのまちづくり」を基本理念とし、複雑多様化した社会状況に適応するため、本会だけでなく住民や民間の団体が行う諸々の福祉課題を解決するための活動を、体系的で年度ごとの目標を定めて意欲的に取り組むもので、本年度は住民の福祉ニーズの把握をはじめ、町ごとに住民懇談会を開催し、新たな社協への理解と活動への支援を協議すると共に、年度末には計画の点検を行う検討会を開催しました。

地域福祉活動の推進では、福祉委員を中心とした地域福祉推進組織等による小地域福祉活動をはじめ、サロン活動や高齢者等支援を必要とされる人が地域で安心して暮らせるように、モデル地区6カ所を選定して実施した高齢者見守り隊事業や、各関係機関や組織等による地域で見守りネットワークの結成のほか、子育て支援活動ネットワークづくりへの取り組み等を進めました。

広報関係では、合併後初めて本会の各種事業を紹介するための福祉活動啓発リーフレット「はい 京丹後市社協です！」を作成し、市内全世帯に配布すると共に、住民懇談会や会費のお願いの際に活用することとしています。

また、地域の中で日常生活をおくるうえで、必要な判断が一人では難しい高齢者や障害者等の福祉サービスの利用を支援し、権利を守るための「福祉サービス利用援助事業」は年々利用者が増加すると共に、相談や支援等への期待はますます高まっており、本年度から利用料金に対する助成制度を創設し、負担軽減による利用者増を図ることができました。契約待機者も増えている等体制の整備も課題となっています。

ボランティア活動関係では、今年度新たな取り組みとして、シニア世代の方を対象にしたボランティア講座をはじめ、企業との連携によるボランティア講座を開催する等、今後の活動への広がりを図ったほか、福祉学習の教材として、ハンドブックも作成しました。一方で災害時における高齢者や障害者を中心とした「要配慮者」への的確な対応や、災害ボランティアの受け入れ等の「災害ボランティア体制」の整備については急がなければならない課題となっています。

福祉有償運送事業では、道路運送法の規定に基づき、自家用有償旅客運送事業者として登録し運行しており、利用者が安全に安心して利用できる運行体制を図りながら地域生活を支援するサービスとして大きな役割を担っています。特に高齢化が進む中では、引き続き医療機関への送迎を中心として安定したサービスの提供を図る必要があります。

2. 重点目標について

(1) 社協組織の改善と安定について

合併後の組織改革として、本年度から本所を弥栄町へ移転し、支所長制を廃止し、本所の職員を9名体制とし総務課と福祉課の2課を設置しスタートしました。業務がスムーズに進むよう各支所は職員2名とし、「峰山・大宮」「網野・丹後」「久美浜」を圏域として本所と支所、あるいは支所間でサポートできるような体制で連携を図りながら事業の展開をしました。

また、本会の事業運営全般について、今まで以上に役職員の資質向上と社会全体の福祉動向の理解に対する研鑽が必要であったため、社協丹後ブロック役職員研修会や役員研修会の開催をはじめ、京丹後市との共催による第1回京丹後市社会福祉大会を開催しました。

さらに、部会・委員会の見直しについては、協議や運営がスムーズに進むように従来の6部会3委員会から、4部会3委員会に再編成をしました。

(2) 第1次地域福祉活動計画による地域福祉の推進について

この計画は、市の地域福祉計画と深く連携し、地域福祉の具体的な推進方策について策定した行動計画で、だれもが主役のまちづくり、安心して暮らせるためのしくみづくり、人と人が豊かにふれあう環境づくり、地域生活を支えるサービスづくり、みんなと共に歩む社協組織づくり、の5つを基本目標としています。

本年度は、住民の福祉ニーズや地域の状況の把握、社協活動への理解を深めるため、自治会をはじめ、民生児童委員、福祉委員等関係者の参加による各地区での住民懇談会や、行政や自治会、民生児童委員協議会、警察署、地域福祉推進組織等によるネットワーク会議を開催し、計画について説明し周知を図りました。

また、計画の進捗状況について、年度末に第1次地域福祉活動計画策定委員会委員による評価・点検を実施しました。

(3) 市受託介護サービス事業等の実施について

介護予防事業・在宅生活支援事業

在宅の高齢者や障害者の方で、調理が困難等食生活の改善が必要と認められる方の自宅へ食事を配達する「食の自立支援サービス事業」や、高齢者で一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯の方へ外出時の援助や買い物等の援助をする「軽度生活援助事業」、生活指導や給食サービス及び日常動作訓練等を行う「生きがい活動支援通所事業」も市から受託して実施しました。

居宅介護事業

要支援状態及び要介護状態と認定を受けた方が、可能な限り自宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、また、介護する家族の方の精神的・身体的な負担を軽減するため要介護者とならないための介護予防サービスも含む「指定通所介護事業」、「指定訪問介護事業」、「指定訪問入浴介護事業」、「障害者居宅介護」及び「在宅重度身体障害者訪問入浴事業」を実施しました。

介護老人保健施設「京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ」

市から運営受託により開設以来9年を経過し、高齢者の自立を支援し家庭への復帰を目指す施設として、また地域に根ざした施設となるよう保健・医療・福祉機関等と連携し、地域と一体となったケアを積極的に努めました。本年2月には、事業受託後初めて「第三者評価」を受診し、評価結果は厳しいものでしたが、結果を詳細に分析し一つひとつ改善し、利用者に対してよりよいサービスが提供できるよう結果を生かします。

(4) 放課後児童健全育成事業について

この事業は、市が直接実施して全市に拡大する中で、合併前の大宮町社協当時から

受託実施してきましたが、近年の子育て環境の変化により利用者が増加し事業の拡充が課題となり京丹後市と協議の結果7月31日で受託を終了しました。

(5) 高齢者見守り隊事業について

何らかの支援を必要とする高齢者等が、地域の中で安心して暮らせるために、地域住民による見守りや声かけ等の支援活動が求められてきており、その仕組みづくりを行う初年度の取組みを行いました。取組み内容は第1次地域福祉活動計画の中の関係項目を重点事業と位置づけて取組み、地域要配慮者安心ネットワーク事業は旧町ごとに6カ所のモデル地区を選定し、地域の実情に合った見守り活動の検討と展開を図りました。また、地域福祉推進ネットワーク会議を組織化するとともに、地域福祉の必要性と関係機関・団体の連携と活動のあり方についての取組みを行いました。

3. 事業概要 (第1次地域福祉活動計画)

基本目標 「だれもが主役のまちづくり」

- 1

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
福祉活動啓発活動 ・ 広報紙発行 (No. 1) ・ リーフレット発行 (No. 2) ・ ホームページの作成検討 (No. 3) 社協の活動や事業の紹介、福祉に対する理解と啓発を目的とした情報発信を図る。	本会事業紹介や報告、地域活動紹介等を掲載した広報紙やリーフレットを発行し、福祉に対する理解と啓発に努めた。 また、6月からホームページを立ち上げ、運用し、最新情報の発信に努めた。

《内容》

- (1) 京丹後市社協だより「こころ」年4回(15~18号)発行 発行部数: 21,200部
- (2) 本会リーフレット「はい 京丹後市社協 です!」発行 作成部数: 30,000部
- (3) ホームページの作成と運用 年間アクセス数 5,124件(期間: 6月12日~3月31日)

2

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
住民懇談会の充実 ・ 住民懇談会 (No. 4) 住民ニーズの把握並びに社協活動理解の機会とし、地域福祉活動の推進を図る。	7月を実施期間として町ごとに実施し、地域福祉活動計画や地域福祉活動の重要性等について説明すると共に、住民の声を聞き、地域の状況等を知ることができた。 参加者が区関係者や福祉委員等、福祉関係に限られていることや、地域の福祉課題等について深められなかったことが課題である。

《住民懇談会》前年度比：実施数同 参加人数 86 人増

	実施日	懇談会名	参加人数
峰 山	7月18日	赤坂区福祉座談会	12
大 宮	7月15日	第2小学校区住民懇談会	37
	7月17日	第1小学校区住民懇談会	50
	7月24日	第3小学校区住民懇談会	26
網 野	7月9日	網野地区福祉懇談会	28
	7月10日	浅茂川・磯地区福祉懇談会	27
	7月11日	北大路・水之江・小浜地区・下岡地区福祉懇談会	26
網 野	7月15日	島津地区・掛津・遊・三津地区福祉懇談会	26
	7月16日	郷地区福祉懇談会	18
	7月17日	木津地区・浜詰・塩江地区福祉懇談会	22
丹 後	7月9日	上宇川地区福祉懇談会	11
	7月11日	下宇川地区福祉懇談会	20
	7月14日	竹野地区福祉懇談会	19
	7月15日	豊栄地区福祉懇談会	17
	7月18日	間人地区福祉懇談会	27
弥 栄	7月8日	吉野小学校区福祉懇談会	24
	7月9日	溝谷小学校区福祉懇談会	16
	7月10日	黒部小学校区福祉懇談会	18
	7月14日	鳥取小学校区福祉懇談会	27
	7月17日	野間小学校区福祉懇談会	8
久美浜	7月8日	川上地区福祉こんだん会	16
	7月10日	一区福祉こんだん会	15
	7月16日	田村地区福祉こんだん会	9
	7月18日	二区福祉懇談	15
	7月22日	海部地区福祉こんだん会	18
	7月24日	神野地区福祉こんだん会	12
	7月29日	湊地区福祉こんだん会	16
	7月31日	佐濃地区福祉こんだん会	16
28 会場			576

3

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
学生への福祉学習 ・社会福祉体験学習 (No.5) ・学校福祉教育への協力 (No.7) 中学生・高校生が福祉や福祉の仕事を理解	体験学習は学校・福祉施設・社協の三者が 共同して取組む事業であり、推進会議を開催し、 事業への理解と意義を確認しながら実施した。 15施設で53人(中学生30人・高校生23人) が体験を行い、振り返りレポートや事後学習が

<p>し、人として大切なものを学習する体験学習を実施すると共に、学校が実施する福祉学習に協力し、福祉教育の充実を図る。</p>	<p>ら心に残る体験をしたことが伺えた。実施時期の検討やプログラムを充実させ、引き続き効果的な事業となるよう努める。</p> <p>また、福祉教育推進事業として保育所・幼稚園・小学校・中学校に助成し、校内及び地域をフィールドとした福祉活動の推進を図り、その一環として、福祉出前講座や講師派遣、福祉体験用具の貸し出し、福祉教育プログラムづくりのアドバイス等を行った。</p>
---	--

《社会福祉体験学習》

推進会議 3回 参加人数 39人

事前学習会 9会場 参加人数 53人

事後学習会 3会場（以外は3日間の最終日に実施）

総括会議 1地域

体験学習（3日間通所プログラム） 前年度比：体験先8施設減、参加人数15人減

体験先	参加学校	参加人数
峰山乳児院	峰山高等学校	2
	峰山高等学校弥栄分校	2
	網野高等学校間人分校	2
峰山乳児院付設幼児寮	加悦谷高等学校	1
はごろも苑	峰山高等学校	2
ないきの家	峰山高等学校	1
特別養護老人ホームおおみや苑	峰山高等学校弥栄分校	3
	大宮中学校	1
大宮生きがいデイサービス	峰山高等学校弥栄分校	1
	大宮中学校	3
	峰山高等学校	2
大宮放課後児童クラブ	峰山高等学校	2
	大宮中学校	2
	網野高等学校	2
	大宮中学校	2
デイサービス京丹後	大宮中学校	2
網野デイサービスセンター	網野中学校	4
桃山の里	網野中学校	3
丹後園	網野中学校	1
	橘中学校	2

	峰山高等学校	1
いちがお園デイサービスセンター	峰山高等学校弥栄分校	2
ゆうゆう作業所	間人中学校	4
グループホームかえで	弥栄中学校	4
はなまるデイサービス	弥栄中学校	2
15 施設	中学校 5 校/高校 5 校	53

《福祉教育推進事業》

	実施数	延べ参加人数
保育所	29	3,252
幼稚園	2	179
小学校	30	6,131
中学校	9	2,343
計	70	11,905

《学校福祉教育への協力》

学校名	日時	対象	内容
大宮第一小学校	11月20日	全学年	耳の聞こえが不自由な方の話を聴く人権講話会への講師派遣
郷小学校	9月25日	4年生	人権学習の一環として、車イス体験の福祉出前講座
	12月2日	6年生	人権学習の一環として福祉に関する話と、高齢者擬似体験及び車イス体験の福祉出前講座
豊栄小学校	11月28日	全学年	耳の聞こえが不自由な方の話を聴く人権学習への講師派遣
黒部小学校	10月10日	4年生	車イスについての学習と、車イス乗車及び介助の福祉出前講座
久美浜小学校	11月6日	全学年	耳の聞こえが不自由な方の話を聴く人権講話会への講師派遣
湊小学校	11月25日	全学年	耳の聞こえが不自由な方の話を聴く人権講話会への講師派遣
峰山中学校	9月24日	1年生	福祉や社協活動及び町内福祉施設の説明
大宮中学校	9月22日	1年生	福祉や社協活動及び町内福祉施設の説明
網野中学校	10月3日	3年生	人権学習の一環として、アイマスク及び車イス体験の福祉出前講座
橘中学校	7月9日 7月10日	3年生	人権学習の一環として福祉に関する話と、アイマスク及び車イス体験の福祉出前講座
間人中学校	7月10日	1年生	福祉に関する話と、アイマスク及び車イス体験の福祉出前講座
網野高等学校間人分校	10月10日	全学年	視覚障害者の理解を自分が体験することにより深めることを目的に、ブラインドウォークの福祉出前講座

4

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>地域での福祉学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象とした福祉学習・研修会の推進 (No. 8) <p>地域住民が福祉について学び、関心を高めることで地域力を高める。</p> <p>小地域いきいきネットワーク活動事業</p>	<p>小地域いきいきネットワーク活動事業の重点活動として、今年度より地域住民による地域の中での福祉学習の推進を図った。具体的な取組みを行った地区は25地区であり、内容は「認知症の学習」や「地域福祉活動」に関するものが多かった。</p>

5

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>住民への福祉学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉のまちづくり研修会 (No. 8) <p>地域に暮らす住民が互いに支えあう福祉のまちづくりのため、関係機関と連携しながら自主的な住民の活動の輪を広げる。</p>	<p>まちづくり研修会は住民への福祉理解と活動の推進を図る機会として定着してきた。</p> <p>本年は会場を峰山から網野に移し、福祉関係者だけでなく一般の方に多く参加いただくことを目的に福祉映画を取り入れた結果、多くの参加が得られ効果的な事業となった。</p>

《福祉のまちづくり研修会》

日 時：2月21日

場 所：アミティ丹後

参加者数：340人

内 容：講演「理論より実行」

兵庫県養父市 区長 井原弘志 氏

ミニ講座「認知症とキャラバンメイトについて」

京丹後市地域包括支援センター 竹内歩己 氏

福祉映画「アカシアの道」 介護の問題に向かい合った作品

6

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>福祉委員活動の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉委員会の機能強化 (No. 11) ・福祉委員研修会 (No. 12) <p>研修会を開催し、福祉委員の役割等につい</p>	<p>福祉委員の改選年度であり、新たな福祉委員を含む585人を対象に研修会を開催し、福祉委員の役割や地域福祉の重要性等について理解を深め、活動の基礎づくりを実施した。</p> <p>また、各地区の福祉委員の代表者で構成する</p>

<p>て理解を高め、活動の充実を図る。</p> <p>町域ごとに福祉委員の代表者が情報交換等を行う地域福祉委員会を設置し、相乗的に福祉委員活動や小地域福祉活動の推進を図る。</p>	<p>地域福祉委員会を町ごとに設置し、情報交換等を通して町域での小地域福祉活動の推進を図った。今後は福祉課題の検討や事業の企画や実施等、内容の充実を図る必要がある。</p>
--	--

《福祉委員数》 前年度比：17人増

峰山	191	大宮	75	網野	109	丹後	70	弥栄	64	久美浜	76	計	585
----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	----	-----	----	---	-----

《福祉委員研修会》

	実施日	参加人数	内容
峰山	5月19日	82	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状の交付 ・地域福祉活動計画について ・地域福祉の必要性と福祉委員の役割について
大宮	5月14日	49	
網野	5月21日	71	
丹後	5月2日	45	
弥栄	4月30日	49	
久美浜	5月23日	37	
計	6回	333	

《地域福祉委員会》

	実施日	参加人数	内容
峰山	5月19日	82	小地域福祉活動・サロン活動の推進等
	6月28日	24	年間行事計画（福祉座談会）等
	1月13日	7	地区代表者会 情報交換（小地域福祉活動）
大宮	5月14日	12	小地域福祉活動・サロン活動の推進等
	12月18日	12	情報交換（小地域福祉活動）
網野	5月21日	26	小地域福祉活動・サロン活動の推進等
	10月2日	31	情報交換（小地域福祉活動）
	3月24日	24	情報交換（小地域福祉活動）等
丹後	5月2日	22	小地域福祉活動・サロン活動の推進等
弥栄	4月30日	15	小地域福祉活動・サロン活動の推進等
	3月31日	12	情報交換（小地域福祉活動）
久美浜	5月23日	3	地域福祉推進組織について
	9月30日	4	地域福祉推進組織について
計	13回	274	

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
地域福祉推進組織の組織化と活動推進 ・地域福祉推進組織による小地域活動の推進 (No14) 地区や連合区を単位に、福祉委員を中心とした地域福祉の推進基盤(地域福祉推進組織)を組織化し、複数体制による効果的な小地域活動の推進を図る。	地域福祉の活動基盤として、福祉委員を中心に、民生児童委員やボランティア等で構成する地域福祉推進組織の設置と活動の充実を進めた。 市内の組織率は53%であるが、組織化が困難な地区や機能していない組織もあり、小地域活動の枠組みや、組織の結成、支援のあり方を検討する必要がある。

《地域福祉推進組織》 前年度比：2組織増

	地区数	組織化助成地区数	組織化地区数	前年度組織化地区数
峰山	37	4	22	24
大宮	16		14	14
網野	31		21	20
丹後	37	1	30	31
弥栄	15	1	15	14
久美浜	71		8	5
計	207	6	110	108

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
ボランティアセンター機能の充実 ・相談窓口の充実 (No.17) ・ボランティアの需給調整 (No.19) ・ボランティアルームの設置推進 (No.21) 情報を必要とする人に、的確に情報提供できるように相談窓口の充実を図る。	ボランティアの登録、コーディネート、グループの活動支援、保険加入等を行い、活動しやすい環境づくりに努めた。 登録ボランティアのボランティア保険の加入については、保険料のうち一人につき100円を本会から、100円を京都府社会福祉協議会から補助した。 ボランティア登録状況は、前年度比、登録者数で163人増であり、活動の拡大がある一方、個人活動への移行や高齢化により更新しなかったグループが7グループもあり、活動の定着や安定したグループ運営のためにも、支援の幅を広げる必要がある。

<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙による情報発信 (No. 18) ・ハンドブックの発行 (No. 20) <p>ボランティアに関する情報を発信し、理解と参加促進を促すと共に、センター機能と役割の啓発も図る。</p>	<p>広報紙に登録グループや新規登録グループの活動、ボランティア募集、ボランティア連絡会活動等を掲載した。</p> <p>また、ボランティアに関する基礎知識や相談窓口情報を掲載したボランティアハンドブックを作成し情報の発信に努めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新たなボランティアの開拓・育成 (No. 22) ・団塊世代対象の講座開催 (No. 23) <p>ボランティア理解を広めると共に、活動者を増やす。</p>	<p>シニア世代を対象に技術取得型の講座や、ショッピングセンターマインを会場にして企業との連携を模索しながら体験講座を実施し、新たな活動者の開拓に努めた。</p>

《ボランティアセンター登録状況》

(1) ボランティアセンター登録状況

前年度比：登録延べ人数 163 人増 グループ登録 3グループ減

	グループ数 / 人数	前年度登録状況
グループ / 会員	92グループ / 延べ 2,269	95グループ
個人	19	37
福祉委員	585	578
雪下ろし・雪すかし活動者	12	36
計	延べ 2,885	延べ 2,722

(2) 登録ボランティアの保険加入 2,128 人

《ボランティア事業》

(1) ボランティアハンドブック発行

「はじめよう！ボランティア～ボランティア活動のための1・2・3～」

(2) ボランティア講座

「ボランティアで地域デビュー」

日 時：1月24日

場 所：国民年金健康センター 丹後おおみや

参加者：15人

内 容：「マジックで不思議な世界を演出します」

指導：マジック夢倶楽部 笹田 憲次郎 氏

「バルーンアートの楽しさお伝えします」

指導：倉田 重夫 氏

「来て！見て！体験！ボランティア」

日 時：2月26日・27日・28日

場 所：ショッピングセンターマイン センターコート

体験者：15人

内 容：パネル展示・活動紹介と参加呼びかけのポスターを掲示
 相談受付・・・ボランティアに関する相談窓口を開設
 体験・・・・・・高齢者疑似体験（介助体験） 車イス乗車体験（介助体験）
 ブラインドウォーク体験（手引き体験）

9

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>ボランティア活動推進とボランティア連絡会機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動支援内容の整理 (No. 29) ・町ボランティア連絡会 (No. 32～33) 体制・運営の安定化の支援 ボランティアグループ間の連携と活動推進 ・市ボランティア連絡会 (No. 34～36) 組織体制・運営の安定化の支援 町ボランティア連絡会間の連携と活動推進 関係機関との連携 <p>ボランティアグループ及びボランティア連絡会の活動充実と運営の安定化を図る。</p>	<p>ボランティアが活動しやすい環境をつくり、持てる力を発揮できるよう支援した。</p> <p>本会及び京都府社会福祉協議会は、積極的に活動しているボランティアグループの活動の拡充と発展のため、必要な資金を援助した。</p> <p>また、ボランティア連絡会の事務局として、運営や活動の支援にあたった。</p> <p>今後は、グループの主体性を発揮する支援が求められる。</p>

《京都ボランティアバンク補助事業によるボランティアグループ活動助成》

(1) ボランティアグループ活動補助金

- ・補助グループ 21グループ (前年度比：17グループ増)
- ・補助金総額 398,000円 (前年度 393,000円)

《ボランティア基金運用による助成等》

- (1) 今年度末基金保有額 219,559,077円
- (2) 今年度基金運用状況 運用益(果実) 2,025,523円
- (3) 主な事業内容

ボランティア助成

- ・ボランティアグループ活動助成
 - 一般助成 26グループ 計 380,000円(前年度比：7グループ減)
 - 特別助成 23グループ 計 866,000円(前年度比：4グループ増)
- ・京丹後市ボランティア連絡会活動助成
 - 京丹後市ボランティア連絡会 520,000円

《ボランティア連絡会(連絡協議会)運営及び活動の支援》

(1) 京丹後市ボランティア連絡会

役員会 年7回

町ボランティア連絡会の活動活性化支援

視察研修

日 時：7月29日

視察先：木津川市ボランティア連絡協議会、積水ハウス(株)総合住宅研究所納得工房

参加者：15人

クリーン作戦

日 時：9月27日

参加者：274人

内 容：市内6ヶ所でクリーン作戦を実施

分野別ボランティア研修交流会

日 時：3月1日

場 所：峰山地域公民館

参加者：94人

内 容：事例発表と意見交流

ふれあいの旅しらかべ号

日 時：9月20日

場 所：国民年金健康センター 丹後おおみや

参加者：48人

内 容：倉敷市「ふれあいの旅しらかべ号」参加者と演芸や会食で交流

丹後いきいきフェスティバル

日 時：3月22日

場 所：府丹後文化会館及び峰山地域公民館

内 容：ボランティア・文化活動交流会に演芸部門が出演、活動紹介の展示

(2) 峰山町ボランティア連絡協議会

役員会 年5回

ふれあいまつり

日 時：11月2日

場 所：京都府丹後文化会館

内 容：峰山文化祭と同時開催でふれあいまつりを実施

・体験コーナー（要約筆記、高齢者擬似体験）

・ふれあいステージ（演奏、歌、よさこい踊り）

・PRコーナー（各団体パネル紹介）他

(3) 京丹後市大宮町ボランティア連絡会

役員会 年6回

独居老人ふれあい弁当お届け訪問事業

日 時：11月8日

内 容：56人のひとり暮らし老人へ手作り弁当をもって友愛訪問を実施

(4) 網野町ボランティア連絡会運営及び活動の支援

役員会 年 5 回

ボランティアでふれあい

日 時：10 月 26 日

場 所：網野健康福祉センターら・ぽーと

内 容：網野町産業祭に出展し、参加型・体験型の活動啓発及び紹介を実施
・体験コーナー（手話・絵手紙）
・展示・観覧コーナー（紙芝居や演奏他）

(5) 丹後町ボランティア連絡協議会

役員会 年 4 回

ボランティア研修会

日 時：9 月 22 日

場 所：丹後老人福祉センター松風苑

参加者：43 人

内 容：医療漫談「イボコロリ」 講師 山本一郎 氏
研修 脳を生き活きとするレクリエーション

ボランティア交流会

日 時：3 月 8 日

場 所：京丹後市丹後老人福祉センター松風苑

参加者：59 人

内 容：80 歳以上のひとり暮らしのかたや施設へ届ける壁掛けづくり
グループ活動発表や活動報告

(6) 弥栄町ボランティア連絡協議会

役員会及び定例会 年 4 回

ボランティアの需給及び斡旋 5 日間 延べ 51 人が活動

ボランティア研修会

（研修会）

日 時：8 月 28 日

場 所：弥栄地域公民館

参加者：22 人

内 容：「認知症について」講師 はなまるデイサービス 松村真由美氏
（体 験）

日 時：10 月 13 日～11 月 22 日の内、8 日間

会 場：N P O 法人やさか福祉村 はなまるデイサービス

参加者：24 人

(7) 久美浜町ボランティア連絡会

役員会 年 7 回

第 3 回くみはまボランティアのつどい～深めよう！ボランティアとボランティア～

日 時：9月20日

場 所：久美浜農業センター

参加者：27人

内 容：ボランティアグループ活動紹介

巾着型ポケットティッシュ入れ・刺し子・お手玉の小物作り

第18回くみはまるかじりまつり出店

日 時：11月9日

場 所：アメニティ久美浜公園

内 容：久美浜町まるかじり祭に出展し活動啓発及び活動紹介を実施

みんなで楽しく刺し子をつくりましょう

日 時：1月9日

場 所：久美浜保健センター

内 容：刺し子づくりの講習

10

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
関係機関、団体との連携・ネットワーク化 ・地域福祉推進ネットワーク会議の実施検討 ・実施 高齢者見守り隊事業 (No38・39) ・関係機関や団体との情報の共有と連携 (No.41) 関係機関や団体(行政・民生児童委員協議会・自治会・地域福祉推進組織等)による市域のネットワーク会議を開催し、連携して地域福祉活動の推進を図ると共に、常に連携しながら効果的な事業展開を図る。	高齢者見守り隊事業の事業項目として取り組み、地域福祉推進に関わる関係機関、団体によるネットワーク会議を組織化し、会議を2回開催すると共に先進地視察研修を実施した。実施時期や内容には課題があったが、関係者が一同に会し、取り組み状況等の情報を共有できたことは大きな成果であり、引き続き連携体制を維持し、地域福祉の推進に努める。

《地域福祉推進ネットワーク会議》

	実施日	参加人数	内容
第1回会議	10月16日	17	会議の目的・役割 活動計画・見守り隊事業説明 情報交換
先進地視察研修	3月4日	31	豊岡市 下陰区自主防災会ネットワーク
第2回会議	3月27日	16	活動計画・見守り隊事業報告 モデル地区 活動報告 情報交換

基本目標 「安心して暮らせるためのしくみづくり」

11

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
-----------	----------

<p>わかる福祉情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉情報発信研究班の募集と班づくり (No. 42) わかる福祉情報発信のための研究 (No. 43) <p>一人暮らし高齢者や障害者等、情報が伝わりにくいかたに、必要な情報を分かりやすく伝える仕組みを構築する。</p>	<p>本会事業においては広報、ホームページや市のおしらせ版等を活用し、わかりやすい情報提供に努めた。しかし、研究班を組織して情報を必要とする方に必要な情報を伝える仕組みづくりは取り組めなかった。次年度は関係機関や団体等と共に、情報伝達の現状を検証し、情報発信の仕組みづくりに努める。また、地域においても、福祉委員等による地域内の支援を必要とする方への情報提供を推進する。</p>
--	---

1 2

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>支援活動のための個人情報の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援情報のための個人情報取扱い要綱の作成 (No. 49) <p>要支援者の個人情報について「情報だけでなく個人を守る視点」での名簿作成と管理の基準を定め、地域住民による支援活動を推進する。</p> <p style="text-align: right;">高齢者見守り隊事業</p>	<p>地域での見守り活動実施にあたり、個人情報の取扱いが課題になっている地区がある。そこで、高齢者見守り隊事業の事業項目に「個人データの管理方法の検討」を取り上げ、先進地視察研修の中でもその取扱いについて学び、素案を作成した。</p>

1 3

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>相談体制の再生と相談技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 社協の相談体制の再検討 (No. 53) 社協役職員の相談技術研修 (No. 55) <p>総合相談支援ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合相談支援ネットワーク」づくり (No. 57・58) <p>住民がより身近なところで安心して相談ができると共に地域の中で必要な支えや協力をえながら暮らせるように連携し支援する。</p>	<p>福祉ニーズをすばやくキャッチし、課題の早期発見と早期対応が可能にするために、役職員を対象とした相談援助技術の研修を行った。</p> <p>総合相談支援ネットワークづくりについては、取り組みができなかったが、今後協議する。</p>

《心配ごと相談》

	件数	内 容
峰 山	34	生計 8 就業 3 教育 4 健康 5 苦情 12 人権 2
大 宮	23	生計 8 健康 12 その他 3
網 野	15	生計 4 就業 5 教育 1 健康 2 苦情 3
丹 後	15	生計 13 就業 2
久美浜	50	生計 15 健康 6 介護 29
弥栄(本	9	生計 8 その他 1
計	146	生計 56 就業 10 教育 5 健康 25 介護 29 苦情 15 人権 2 その他 4

1 4

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>地域で見守りネットワークの形成</p> <p>・「地域で見守りネットワーク」づくり (No. 60・61)</p> <p>一人暮らし老人や障害者等、支援を必要とする方が地域の中で、安心して生活できるよう、地区、地域福祉推進組織等による見守り活動を推進する。</p> <p>小地域いきいきネットワーク活動事業 高齢者見守り隊事業</p>	<p>地域での見守り活動の実施と意識付けを、今年度より小地域いきいきネットワーク活動事業の基本活動に取り入れ、推進を図った。また、高齢者見守り隊事業において地域要配慮者安心ネットワーク事業モデル地区を旧町ごとに 6ヶ所指定し、地域の実情に応じた見守り活動の実施を進めた。今後、この内容を活かし、見守り活動の充実を図ると共に、見守り活動で現れた課題を他に拡大し、改善する仕組みづくりが必要である。</p>

《地域要配慮者安心ネットワーク事業モデル地区》

	モデル地区	活 動
峰 山	長 岡	・サロンの定例開催(月1回) ・訪問活動の実施(一人暮らし老人の安否確認)
大 宮	善王寺	・見守り隊を立ち上げ、要配慮者への日常的な見守り活動の実施
網 野	北大路	・防犯交通安全班を組織し、福祉マップの作成や子どもから老人までを対象とする見守り活動の推進
丹 後	徳 光	・自主防災組織による要配慮者の調査を実施し、災害時等にそなえた体制づくり
弥 栄	吉 沢	・福祉ニーズ把握を目的に、区内の 65 歳以上の方を対象にアンケート調査を実施
久美浜	十 楽	・ボランティアの福祉訪問員を設置し、要配慮者への定期的な見守り活動を実施

15

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
子育て支援活動ネットワークの形成 ・「子育て支援活動ネットワーク」づくり (No. 63・64) 子育てに関する事業や取組みを行う機関・団体が情報を共有し、連携しながら子育て支援を進める体制づくりを進める。	子ども・子育てに関する機関や団体が課題や活動等の情報を共有し、各々の活動の推進を図ると共に、連携して取組む機会として、大宮町、久美浜町で懇談会を開催した。次年度からは各町単位で開催し、市域でのネットワークの形成について検討する。

《子ども・子育て関係機関・団体懇談会の開催》

	実施日	参加機関・団体
大宮	3月24日	子育て支援センター・主任児童委員・母子寡婦会 子育てサロン(口大野・奥大野・周枳・河辺・善王寺)
久美浜	3月25日	地域公民館・活性化協議会(田村)・主任児童委員 母子寡婦会・小学校区見守り隊(畑)

16

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
福祉サービス利用援助事業 (No. 66～70、72～73) 各種福祉サービスの利用や日常的な金銭管理に関して、自分一人では判断が難しい方々が地域で安心して暮らせるために支援する。	利用に向けた相談や新規申込件数が増加した。利用者が抱えている生活課題も複雑化してきているが、行政や福祉、医療等の関係機関のほか、地域関係者と連携を図りながら事業を実施した。

《実績》

(1) 福祉サービス利用援助事業の実施体制(人) 前年度比：生活支援員4人増

専門員	1
生活支援員(年度末の登録者数)	28

(2) 問合せ・初回相談件数 前年度比：問い合わせ11件増 初回相談2件増 (件)

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
問合せ件数(制度、事業について)	0	0	1	5	6
初回相談件数(初回相談受付)	22	2	1	4	29

(3) 相談・連絡調整活動の実施状況(契約前・契約終了後含) 前年度比：259件増(件)

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
相談・連絡調整件数	1,515	1,156	2,226	764	5,661

(4) 利用者の状況 前年度比:新規4人減 契約終了・解除1人減 実利用者6人減 (人)

	認知症 高齢者等	知的 障害者等	精神 障害者等	その他	合計
新規利用者数(本年度)	9	1	2	1	13
契約終了・解約者数	2	0	5	2	9
実利用者数(平成21年3月末現在)	20	11	9	7	47

(5) 役職員・生活支援員研修

日時: 3月16日

場所: 京丹後市弥栄地域公民館

参加者: 役員9人・生活支援員12人(26人の内)・職員10人

内容: 講義「心を引き出し理解する相談」

京都府丹後広域振興局健康福祉部丹後保健所福祉室

副室長 小牧 裕昭 氏

事業実施状況及び機能拡充についての説明、グループ討議

(6) 市民税非課税者に対する利用料金の助成

実人員23名・延べ308回・助成金額400,900円(総額)

17

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
災害時等福祉救援マニュアルづくりと運用 ・マニュアル作成についての検討 (No.75) ・要配慮者リストなどの作成 (No.77) 災害時の福祉救援活動マニュアルを作成し、被災者支援および災害復旧を円滑にすすめる。	災害が発生した際、障害のある人や高齢者など配慮を必要とする人に対し、どのような救援活動が求められるか、市が進めている災害時要配慮者支援計画と調整しながら、マニュアル作成について検討した。

18

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
災害時等福祉救援マニュアルと災害ボランティアセンター運営マニュアルの連動 ・「災害時等福祉救援マニュアル」と「災害ボランティアセンター運営マニュアル」の連動方法の検討 (No.82) マニュアルを基にセンター設置訓練を実施し、災害時に活動する諸団体の連携の構築及びセンター設置のノウハウの蓄積や技術の向上を図る。	京丹後市防災会議への参加、マニュアル作成に関わる市との調整会議等により、既存の災害ボランティアセンター運営マニュアルとの連動について検討した。 また、京田辺市で実施された京都府総合防災訓練に参加し、センターの設置訓練を行い、設置の手順やボランティア・マスコミ対応に関する応用技術を学んだ。

基本目標 「人と人が豊かにふれあう環境づくり」

19

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>ふれあいサロンの設置と活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進形態の整理 (No. 85) ・ 活動担い手交流研修会 (No. 87) ・ 参加者ニーズの発見 (No. 88) ・ 地域主催サロン推進 (No. 90) ・ 当事者サロンモデル指定 (No. 91) ・ ボランティアなど主催サロン支援 (No. 93) <p>人と人との「ふれあいの場」として、地域住民主体の高齢者ふれあいサロン・子育てサロン等、さまざまな形態のサロンの設置と活動の推進を、助成や担い手研修会等を通し支援する。</p>	<p>さまざまな形態のサロンを整理しながら推進した。特に地区を単位に住民主体で行うサロンの設置と活動の推進に重点を置き、久美浜町においては新規の設置があり、活動が広がっている。従来からの実施地区においては、担い手不足や実施場所や回数等、新たな課題が生じてきているため、地域福祉委員会や担い手研修会等でも協議し改善に努めた。当事者やボランティア主催のサロンは助成を中心とした支援となっているので、モデル指定等を行い内容把握しながら活動の支援、充実を図った。</p>

《地域主催サロン》 前年度比：実施地区数 7地区増 サロン数 6増

	実施地区数	サロン数	実施回数	延べ参加人数
峰山	14	14	123	2,442
大宮	10	15	161	2,912
網野	10	10	98	1,608
丹後	25	25	190	3,152
弥栄	12	12	138	2,388
久美浜	10	10	68	1,185
計	81	86	778	13,687

サロン区分：区民 38 高齢者 42 子育て 6

《当事者・ボランティア主催サロン》 前年度比：障害者 1増、児童青少年 2減

	サロン数	実施回数	延べ参加者数
高齢者	7	127	2,101
障害者	3	28	493
児童青少年	7	115	2,493
自宅開放	2	24	257
計	19	294	5,344

《ふれあいサロン担い手研修会》

	実施日	参加人数	内容
峰 山	9月26日	20	レク実践指導 田中千壽子氏
大 宮	3月19日	55	実践報告（奥大野・善王寺地区） 情報交換
網野・丹後	2月14日	40	講演 岩崎晃氏 レク実践指導 梅田美佐子氏
	3月5日	43	講演 岩崎晃氏 レク実践指導 田中千壽子氏
弥 栄	10月21日	27	健康運動実践指導 今岡梨花子氏
久美浜	12月11日	24	レク実践 田中千壽子氏
計	6回	209	

20

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
小地域ふれあい活動の推進 ・活動支援内容の見直し (No.94) ・関係機関との懇談 (No.95) ・活動の推進 (No.96) 小地域いきいきネットワーク活動事業 地域福祉活動支援事業(久美浜町)	福祉委員や地域福祉推進組織による小地域いきいきネットワーク事業を101地区が取り組み、地域に応じた活動を実施した。本年度から、基本活動と重点活動を設け、相談や見守り活動、世代間交流等の実施を必須事業として位置づけた。 久美浜町は地域福祉活動支援事業で活動の充実を図った。小地域活動は広がっているが、地域の中の支援を必要とする方へ視点を置いた活動を充実させる必要がある。

《小地域いきいきネットワーク活動事業・地域福祉活動支援事業》

前年度比：小地域いきいきネットワーク活動事業実施地区 2増

地域福祉活動支援事業実施地区 6増

	小地域いきいきネットワーク活動事業実施地区	地域福祉活動支援事業実施地区	事業数	延べ参加人数
峰 山	21		73	1,726
大 宮	16		40	1,364
網 野	18		18	1,334
丹 後	31		53	2,411
弥 栄	15		31	1,146
久美浜		47	92	9,962
計	101	47	307	17,943

2 1

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
世代間交流活動の推進 ・活動の推進 (No. 97) ・活動における関係機関懇談会の検討 (No. 98) 双方にとって効果的である、世代間交流を推進する。 小地域いきいきネットワーク活動事業	小地域いきいきネットワーク活動事業の重点活動として、今年度より地域内での世代間交流活動の推進を図り、29地区が実施した。 また、福祉教育推進事業においては、保育所・幼稚園・小学校・中学校の福祉教育の取組みの中で地域や施設の高齢者との交流を推進し活動が拡大した。

2 2

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
当事者組織の組織化と活動支援 ・組織調査・ニーズの把握 (No. 100・101) ・組織化支援・組織活動支援 (No. 102・103) ・組織活動ネットワーク会議の検討 (No. 96) 当事者組織の現状及びニーズを把握しながら組織化並びに組織活動を支援し、当事者組織の機能を活用した課題改善を進める。当事者団体同士が連携を図り、相互に支え合えるネットワーク構築を進める。	当事者組織の活動支援として助成やレクリエーション用具・部屋の貸出しを行った。組織の状況やニーズの把握は、大宮町と峰山町で障害児者福祉施設・団体懇談会を開催し情報交換等を行った。日程調整や説明が不十分で、参加人数が少なかった。 当事者の主体性を基本とし、本会として必要な支援やネットワーク化について、関係機関と連携し検討を行う必要がある。

《障害児者福祉施設・団体懇談会》

	実施日	参加機関・団体
大宮	3月26日	おおみや共同作業所・障害児者多機能型生活支援センターろむ・障害児者を守る会・身体障害者更生会
峰山	3月27日	あけぼの会

基本目標 「地域生活を支えるサービスづくり」

2 3

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
住民主体のサービス ・開発方法についての検討・サービスの立ち上げ (No. 107・108)	既存のサービスや制度等での解決が困難な福祉ニーズについての実態把握分析、開発方法や事業についての検討ができなかった。

<p>本会主体の地域生活支援事業</p> <p>・事業の検討・実施・普及啓発・評価方法の検討 (No. 113~116)</p> <p>住民がより身近なところで安心して相談ができ、地域の中で必要な支援や強力を得ながら暮らせるように支援する。</p>	
<p>・共同募金活動の検討・配分事業の実施 (No. 118・119)</p> <p>住民相互のたすけあいを基本に、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを進めるための活動として、効果的な募金活動と事業の実施を住民をはじめ関係機関と連携して進める。</p>	<p>「地域の福祉 みんなで参加」をスローガンに戸別募金・街頭募金・法人募金・職域募金・イベント募金等の募金活動を関係機関や団体と連携して取組んだ結果、法人募金は昨年より増額となった。配分事業は、地域福祉活動・当事者団体の活動・サロン活動への助成、福祉教育やボランティア活動の推進、地域福祉研修会等を行い、地域福祉活動の充実を図った。今後も、活動を周知し、効果的な募金活動と事業展開を図る必要がある。</p> <p>歳末たすけあい運動は「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに、地域住民や区役員等の支援と協力を得て募金活動を行い、配分は京丹後市民生児童員委員協議会の協力を得て、支援を必要とする世帯と施設に配分を行った。</p>

《住民参加型相互援助サービス》(丹後町)

	時間	利用人数	協力人数	内容
家事援助	126	2	2	掃除・調理
身体介助	4	2	2	通院介助

《共同募金活動》

前年度比：40,111円減(戸別83,314円減、街頭52,140円減、職域16,375円減、法人91,830円増、イベント13,837円増、募金箱他6,054円増) (円)

戸別募金	7,969,364	職域募金	478,133
街頭募金	259,512	イベント募金	24,575
法人募金	1,107,621	募金箱 その他	73,730
合 計		9,912,935	

《共同募金配分事業》京都府共同募金会より7,177,271円の配分金を受け事業を実施した。(円)

区分	事業名(件数)	金額
高齢者	京丹後市老人クラブ連合会活動助成(6)	249,000
	高齢者当事者団体活動助成(4)	70,000
	高齢者サロン活動助成(7)	195,000
障害児者	京丹後市身体障害者団体連合会活動助成(3)	115,000
	京丹後市手をつなぐ親の会協議会活動助成(6)	181,000
	障害児者当事者団体活動助成(7)	157,000
	障害児者サロン活動助成(3)	75,180
児童青少年	京丹後市母子寡婦福祉会活動助成(6)	119,000
	京丹後市父子会活動助成(1)	10,000
	児童当事者活動助成(1)	30,000
	子育てサロン活動助成(7)	180,000
	ひとり親家庭入学お祝事業(37)	188,506
住民全般	自宅開放型サロン活動助成(2)	168,000
	中学校福祉教育推進事業(9)	215,000
	小学校福祉教育推進事業(31)	440,700
	幼稚園福祉教育推進事業(2)	20,000
	保育所福祉教育推進事業(29)	220,000
	地域子ども見守り活動助成(22)	255,000
	小地域新規組織設置助成(6)	30,000
	小地域いきいきネットワーク活動助成(101)	2,214,000
	社協広報紙発行2回分	480,816
	ホームページ管理費	101,365
	住民懇談会	140,815
	社会福祉体験学習事業	36,661
	福祉のまちづくり研修会	377,773
	サロン担い手研修会	130,404
	団塊シニア・ファミリーボランティア教室	161,620
	ボランティアハンドブック作成	60,000
	レクリエーション用具整備	149,115
災害用備蓄品(災害用毛布・ジャンパー)	312,963	
事業に係る通信運搬費・消耗品等	93,353	
	合 計	7,177,271

《歳末たすけあい募金》戸別 282,238 円減・窓口 19,162 円減・篤志寄付 37,147 円増 (円)

募金内訳	金額
戸別募金	7,902,229
窓口募金箱 その他	7,399
篤志寄付	371,730
前年度未交付金	181,072
合計	8,462,430

《歳末たすけあい配分》 (円)

配分先	件数	金額
要生活支援世帯	514	4,996,000
(加算) 乳幼児	9	18,000
保育所・幼稚園児	12	24,000
小学生	103	206,000
中学生	81	243,000
高校生	50	200,000
専門/大学生	15	60,000
長期療養者	113	791,000
在宅障害児者	176	1,232,000
単親世帯/父母のいない世帯	105	420,000
障害者施設	1	50,000
事務費		94,957
次年度への繰越金		127,473
合計		8,462,430

基本目標 「みんなと共に歩む社協組織づくり」

24

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
活動理念と目標設定 ・活動理念と目標などの役員・職員合同協議 (No. 120) ・本会事業、活動の検討 (No. 121) ・地域住民、行政、福祉関係機関との連携強化や情報の共有化方策の検討 (No. 122) ・住民、福祉関係者との座談会・研修会・説明会 (No. 123) ・役員・職員研修会、職場内研修について	活動計画について、策定時には、役員と職員とで協議をし計画づくりをしたが、実施状況の把握については役職員の共有化を図ることができなかった。 また、関係機関等のネットワーク会議に参加しているが、連携強化など方策について検討ができなかった。 地域の福祉ニーズの把握や社協への理解を広げるための住民懇談会を各町の地区単位で、福祉関係者等の参加のもと実施した。

<p>の検討 (No. 124)</p> <p>地域の福祉力向上を目指し、役職員間で理念・目標の共有化を図るとともに、資質向上や組織・事業のあり方の検討、関係機関等とのネットワーク、地域の福祉ニーズの把握や社協への理解を図る。</p>	<p>研修については、丹後ブロック役職員研修会等を実施した。</p>
---	------------------------------------

《社協丹後ブロック役職員研修会の実施》

共 催：京丹後市社会福祉協議会、宮津市社会福祉協議会、与謝野町社会福祉協議会、伊根町社会福祉協議会

後 援：京都府市町村社会福祉協議会連合会

日 時：10月19日

場 所：京丹後市峰山総合福祉センター コミュニティホール

対 象：社協役員、職員、民生児童委員、福祉委員、行政関係者

参加者：141名

内 容：講演「今後の地域福祉活動における社協や行政の役割」

講師 宝塚市社会福祉協議会 事務局長 佐藤寿一氏

25

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
<p>本会活動などの住民への周知・公聴活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京丹後市社会福祉大会の検討 (No. 126) ・京丹後市社会福祉大会の実施 (No. 127) ・調査・公聴活動の検討 (No. 128) ・調査・公聴活動の実施 (No. 129) <p>アンケートや懇談会を通じて地域のニーズや社協活動への評価や意見を把握する。</p>	<p>京丹後市が誕生して5年目という記念の年を迎え、また、合併後初めての取り組みとして、市と共催で第1回京丹後市社会福祉大会を開催した。</p> <p>大会は、地域の方や福祉関係者、民生児童委員、ボランティア及び福祉関係者が一堂に会し、より一層地域福祉の発展と安心して暮らせる福祉社会の形成を図ることをねらいに、式典、表彰、講演の内容で実施した。</p> <p>また、各地区で区長、民生児童委員、福祉委員等を対象にした、住民懇談会も実施した。</p>

《京丹後市社会福祉大会の実施》

主 催：京丹後市、京丹後市社会福祉協議会

日 時：11月16日

場 所：京丹後市峰山総合福祉センター

内 容：第1部 表彰・式典・表彰及び感謝状贈呈

京丹後市長表彰	社会福祉功績者	《民生委員・児童委員》 35人 《社会福祉団体役員》 5人 《福祉ボランティア役員》 5人
京丹後市社会福祉協議会会長表彰	社会福祉事業特別功労者 社会福祉事業協力者感謝状	《社会福祉協議会役員等》 98人 《職員》 4人 《民生委員・児童委員》 76人 《福祉・ボランティア》42グループ 《福祉推進組織》 22組織 《多額寄付者》 4団体9人

第2部 記念講演

演題「笑いの中から 心の幸せさがし～福祉は我が家から」

講師 落語家 立花家千橘氏

26

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
組織・管理体制の強化 ・組織体制の検討再構築（No.130） ・「危機管理体制マニュアル」の作成（No.131） ・「危機管理体制マニュアル」による危機管理の実施（No.132） 組織体制を再構築するとともに危機管理体制の強化を図る。	今年度は、組織改革の初年度として新たな体制でスタートした。組織体制については、初年度の結果を検証し今後の方策を検討する。 危機管理マニュアルの作成については取り組みなかった。

《会議開催状況》

- 理事会・・・・・・・・・・年6回
- 評議員会・・・・・・・・・・年2回
- 監査会・・・・・・・・・・年1回
- 総括部会・地域福祉部会合同会議・年1回
- 総括部会・・・・・・・・・・年4回
- 組織運営部会・・・・・・・・・・年4回
- 地域福祉推進部会・・・・・・・・・・年4回
- 福祉サービス事業部会・・・・・・・・・・年3回
- 広報委員会・・・・・・・・・・年6回
- 生活福祉資金貸付調査委員会・・・・年1回
- ボランティア基金委員会・・・・・・・・年3回
- 支所運営委員会・・・・年17回（内訳：峰山4、大宮1、網野2、丹後3、弥栄3、久美浜4）
- 福祉資金運営委員会・・・・年5回（内訳：大宮1、弥栄1、久美浜3）

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
財政基盤づくり <ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤の検討委員会の設置（No.133） ・財政基盤強化活動の評価・点検（No.134） ・改善、事業評価などのための提言（No.135） 《自主財源の検討・確保 No.136～139》 <ul style="list-style-type: none"> ・社協会費についての見直し（No.136） ・会員増強、啓発活動（No.137） ・寄付、基金運用についての検討（No.138） ・寄付についての啓発（No.139） ・助成金活用（No.140） <p>財政基盤の強化についてさまざまな角度から検討を行い方法を探るとともに、会員制度の見直しや寄付金の活用の検討や助成金の活用を図る。</p>	<p>財政基盤の強化や会費の見直しについての委員会の設置や評価・点検については実施できなかったが、経費節約や縮減、事務の合理化については、全職員で提言しまとめた。</p> <p>会員の増強や啓発活動については、広報紙やホームページでPRをした。</p> <p>助成金については、社協丹後ブロック役職員研修会で、京都府市町村社協連合会より、地域の福祉力育成支援事業を活用したが、民間の福祉基金を活用した福祉事業は取り組めなかった。</p> <p>社協の基盤整備、組織強化や地域福祉を推進するため、会員の加入促進を図ることは大変重要である。会員は一般会員・賛助会員とし、各区を通じてお世話になり加入促進を図った。</p>

《会費》 前年度比：206件減（一般会員189件減 賛助会員17件減 329,100円減）

一般会員		賛助会員		合計	
15,041件	15,704,000円	412件	1,811,000円	15,453件	17,515,000円

《寄付金》 福祉のまちづくりや地域福祉活動に対する市民の皆さんから寄せられた寄付金は、合計で153件、金額は8,447,250円（前年度192件、10,743,618円）でした。寄付者の意向を尊重し、大切な資金として慎重に用途を検討します。

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
福祉活動計画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・計画の周知の方策検討（No.141） ・計画周知（No.142） ・計画点検・評価委員会の設置（No.143） ・計画点検・評価基準の検討（No.144） ・計画点検・見直し（No.145） <p>地域福祉活動計画の住民への周知や広報、また、住民並びに関係機関による計画の進捗状況や効果の検証を行い、計画的な事業展開を図る。</p>	<p>計画の周知については、各地区で開催した住民懇談会の場での説明やPR、また、本会のホームページにも掲載した。</p> <p>活動計画を点検する評価委員会は設置できなかったが、第1次地域福祉活動計画策定委員会の委員による評価、点検を行った。</p> <p>評価基準としてのマニュアルの作成は今後の課題である。</p>

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
福祉サービス事業運営の検討 <ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス（受託・自主など）の検討 (No.146) 自己評価、第三者評価について検討 (No.147) 苦情対応システムの検討 (No.148) 苦情対応システムの実施 (No.149) <p>本会の福祉サービス事業について今後のあり方も含めて検討するとともに、苦情対応システムの実施によりサービスの質の向上を図る。</p>	<p>福祉サービスの事業運営について、今年度は検討できなかったが、福祉サービス事業部会による受託事業並びに介護事業についての学習をした。</p> <p>第三者評価を、介護保険施設運営や福祉サービスの質の向上を図るため、発足以降初めて老人保健施設ふくじゅが受診した。</p> <p>苦情対応システムについては、社協全体の苦情処理を行うため、苦情処理実施要綱を変更した。</p>

4. 事業概要（在宅福祉サービス事業）

(1) 健康・生きがいづくり事業

1

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
京丹後市網野高齢者すこやかセンター管理運営事業（受託） <p>在宅の高齢者に対して生きがいや健康の保持及びレクリエーションの場を提供し、高齢者福祉の推進を図る。</p>	<p>高齢者が利用しやすい施設とすると共に、利用者の安全に気を配った施設管理を行い、その一環として、救命救急講習を実施した。</p> <p>利用状況は冬期の利用が多く、また、他町からの利用者も増えた。</p> <p>引き続き、広報等で利用の周知を図る。</p>

《実績》延べ利用者数 13,400人（前年度比：917人増）

2

事業名及び事業目的	取組み内容と実績
京丹後市丹後老人福祉センター管理運営事業（指定管理） <p>高齢者が自主的に教養講座やレクリエーション活動等を通して心身の健康を保持推進し、介護予防を行う。</p>	<p>部屋の貸し出しと温泉サービスを中心として、利用者に気持ち良く楽しんでいただくために清掃等の環境整備を心がけた。</p> <p>延べ利用人数は20人減少したが、部屋の貸出しは20団体・277人増加し、167団体・2,156人であった。</p>

《実績》延べ利用人数 7,214人（前年度比：20人減）

（内訳：部屋利用者2,156、すこやか大学525、鍼灸1,560、温泉入浴者2,973）

3

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
すこやか大学事業（受託） 高齢者の豊かな経験と知識・技能等を活かし、一人ひとりの学習意欲に応じた講座を設けることにより、高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進する。	高齢者の生きがいや仲間づくりの場となるように、12講座（年60回）を設けて、参加しやすい環境を整える共に、新たな参加者の増加を促進したが、延べ参加人数は791人で昨年度から116人減少した。

《実績》延べ参加人数（前年度比：116人減）

	俳句	生花	手芸	書道	詩吟	園芸	かた	法話	料理	囲碁	G B	G G	開/閉校式
参加人数	35	82	77	57	41	71	116	41	15	42	50	72	92
講座回数	7	7	7	7	7	7	7	2	1	4	1	1	2

G B = ゲートボール、G G = グラウンドゴルフ

4

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
鍼灸事業（地域福祉基金） 高齢者を始めとして健康の保持促進に不安のある方や体力の維持向上を図るため、鍼灸事業を行う。	昭和54年から明治国際医療大学と協力して実施し、地域に密着した事業として多くの方々に利用いただいているが、利用者の高齢化等に伴い、利用は減少傾向にある。19年度から事業の協力費として一回200円の協力費を徴収している。

《実績》 学生による実習 18回（54日間）
 教授によるボランティア指導 3回（6日間）
 延べ利用人数 845人（前年度比：182人減）
 学生/教授延べ人数 715人（前年度比：33人減）

（2）介護予防事業

5

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
生きがい活動支援通所事業（受託） 家に閉じこもりがちな在宅の高齢者に対し、送迎・生活指導・給食サービス・アクティビティ等のサービスを提供し、高齢者が生きがいを持って自立した生活を送ると共に心身機能の維持向上を図ることを目的とする。	大宮 季節行事やレクリエーション、会話等を通じ社会参加や生きがいづくりの場となるよう取り組んだ。本年度より峰山の利用者も加わり、稼働日と利用人数は増えたが、介護保険サービス移行者が多く、1日平均は4月当初から3名減となった。大宮の利用者は月の利用が1,2回の方もあるので、利用回数が増えるよう事業内容を見直し、充実に努めたい。

	<p>週 2 回(水曜日は農業センター、金曜日は福祉センターにて)それぞれ違う利用者に対し、健康体操等を行い心身機能の維持向上を図ると共に、自立した生活が継続できるように必要な支援を行った。福祉センターは 2 階が活動場所であり、階段やトイレ等、構造上の課題がある。前年度と比べ、延べ利用者数は 79 人減少した。</p>
--	---

《実績》

月 別	大宮	久美浜
延べ利用人数	4,169 人	1,246 人
延べ実施日数	236 日	97 日

(3) 在宅生活支援事業

6

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
<p>食の自立支援サービス事業 (受託)</p> <p>高齢者や障害等で食事の調理が困難な方や様々な病態に対応した食事が必要な方を中心に、配食サービスを通じて栄養改善や生活支援を行う。</p>	<p>本年度は病態食の利用等、個別対応が必要な利用者が増加した。また、配食範囲は久美浜町を除く 5 町に広がっており、確実な安否確認を行うためにも、合理的な配達を行う必要がある。</p>

《実績》 実利用人数 920 人

配食数 26,024 食 (内訳：朝食 282、昼食 13,532、夕食 12,210)

7

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績				
<p>軽度生活援助事業 (受託)</p> <p>在宅の高齢者及び障害者が住み慣れた地域社会の中で自立した生活を継続していくことを支援し、高齢者等の福祉向上を図る。</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">大宮</td> <td>新規登録人数は年々減少し、また、介護保険サービス利用への移行もあり、3 月現在の登録者及び利用者は 4 人である。稼働日数が少ないことから、援助員の確保が課題である。</td> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">網野</td> <td>当初は利用者が少なく、援助員の確保ができなかったが、利用者、援助員共に増え、効果的な援助活動を実施することができた。</td> </tr> </table>	大宮	新規登録人数は年々減少し、また、介護保険サービス利用への移行もあり、3 月現在の登録者及び利用者は 4 人である。稼働日数が少ないことから、援助員の確保が課題である。	網野	当初は利用者が少なく、援助員の確保ができなかったが、利用者、援助員共に増え、効果的な援助活動を実施することができた。
大宮	新規登録人数は年々減少し、また、介護保険サービス利用への移行もあり、3 月現在の登録者及び利用者は 4 人である。稼働日数が少ないことから、援助員の確保が課題である。				
網野	当初は利用者が少なく、援助員の確保ができなかったが、利用者、援助員共に増え、効果的な援助活動を実施することができた。				

《実績》

	大宮	網野	
利用登録人数	7	7	
実利用人数	7	7	
利用回数	141	210	
利用時間数	141	270	
内容	家事援助（家事全般）	114	150
	その他（安否確認・話し相手等）	27	60

8

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
福祉サービス利用援助事業	《 =No. 66～70 No. 72～73》

9

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
福祉有償運送事業 一般の公共交通機関等を利用することが困難な方に対し、利用者の居宅と医療機関、公共機関等との間を移送用車両で送迎し、在宅福祉の向上を図る。	本年度から利用受付や運転手調整、新規利用者登録手続きなど総合的機能を持つ支所と、相談窓口中心の支所に機能を分けた体制で実施した。また、利用登録者の登録更新を実施し、登録利用者の名簿整理を行った。 より利用しやすいサービスとするため、予約方法の検討をし、10月から前日及び当日の予約受付もできる内容に見直した。 前年度に比べ、利用者数・利用回数共に減少したが、利用者の入院や施設入所、医療機関の往診や送迎の充実が主な理由である。

《実績》 利用登録人数 536人（前年度比：28人減）
 実利用人数 396人（前年度比：34人減）
 利用実日数 314日（前年度比：1日増）
 利用回数 13,755回（前年度比：1,674回減）

10

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
雪下ろし・雪すかし事業 大雪の被害により日常生活に支障をきたす 高齢者世帯及び障害者世帯等に対して、降雪状況や家屋の状況等を勘案し、雪下ろ	地域で事業体制を整備し、生活道路の除雪に取り組んだ。 高齢化が進み事業体制が区内で整備できない地区もあることから、新たな体制の整備を望む声が区から出ている。

しや雪すかしを行い、生活しやすい環境をつくる。	
-------------------------	--

《実績》 2地区 雪すかし9時間 活動者12人

1 1

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
在宅重度身体障害者訪問入浴サービス事業 (受託) 在宅の重度の身体障害者の生活を支援し、訪問により入浴サービスを提供することでその家族等の負担の軽減を図る。	在宅重度身体障害者への訪問入浴サービスとして、質の高いサービスの提供に努めた。 利用ニーズへの対応として、9月より久美浜町外の方への訪問を開始した。

《実績》 利用実人数 3人
 延べ訪問日数 107人
 延べ利用回数 107回

1 2

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
障害福祉サービス(居宅介護事業) (久美浜) 利用者が居宅において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、身体介護・家事援助等、生活全般の援助を行う。	利用者の自立支援を基本として主に家事援助を行い、利用者の生活援助を行った。 利用者の拡大と共に、サービスの質の向上に努めた。

《実績》 利用実人数 10人
 延べ訪問日数 354人
 延べ利用回数 1,411人

5. 事業概要 (介護保険事業)

(1) 居宅介護事業

1

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
訪問介護・介護予防訪問介護事業(久美浜) 利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるよう、居宅における生活の援助を行う。	利用者の介護度、サービス内容の希望等を取り入れた個別援助計画を立て、質の高いサービス提供に努めた。 利用者が減少傾向にある為、関係する介護サービス事業所との連携等による利用者の拡大と、効果的な運営が課題である。

《実績》訪問回数 10,575 回
 要支援者 27 人
 要介護者 64 人
 訪問介護員 22 人（内訳：常勤 3、兼務 3、登録 16）

- 2

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護事業（久美浜） 利用者が可能な限り居宅において、その有する力に応じた自立した日常生活を営むことができるよう、居宅における入浴の援助を行うことにより、利用者の身体の清潔保持及び心身の機能の維持を図る。	入浴回数の希望や他のサービスとの連携を重視した訪問介護計画を立て、利用者が居宅において清潔で安定した生活ができるようサービスの向上を目指し実施した。 利用者が減少傾向にある為、居宅介護サービス事業所との連携等による利用者の拡大と、効果的な運営が大きな課題である。

《実績》利用人数 142 人（前年度比：27 人減） 利用実人数 21 人
 訪問回数 596 回（前年度比：65 回減）

（ 2 ） 通所介護事業

- 3

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
通所介護・介護予防通所介護事業（受託） 要介護及び要支援と認定された高齢者に対し、可能な限り居宅において、その有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるよう、日常生活上の世話や機能訓練を行うことで、社会的孤立の解消や心身機能の維持並びに家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。	新規の利用者が少なく、また、利用者のショートステイ利用や入院等で延べ利用者数は減少した。 安全面に配慮し、質の高いサービスの提供に努めた。引き続き関係機関と連携して利用者の拡大を図ると共に、効果的な運営を行う必要がある。

《実績》延べ利用人数 5,096 人（前年度比：317 人減）
 稼働日 258 日
 平均利用人数 19.8 人（前年度比：1.2 人減）

（ 3 ） 介護保険施設事業

- 4

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健施設事業 ・短期入所療養介護事業 / 介護予防短期入所療養介護事業 	施設利用人数は、全体的に前年度と大きな違いは無かったが、今後も引き続き質の高いサービスの提供に重点を置いた積極的な事業展開を図る。

<p>・通所リハビリテーション事業 / 介護予防通所リハビリテーション事業</p> <p>・居宅介護支援事業</p> <p>京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅの条例・規則・規程等に基づき、今後予想される高齢者の介護保険サービス利用者の増大及び多様化・高度化に対応できるサービスの提供者として、より一層京丹後市民に支持される施設を目指していく。</p>	<p>本年 2 月には、第三者評価を初めて受診した結果は厳しいものであったが、指摘を基に一つひとつ改善し、よりよいサービスが提供できるよう全職員の意識改革を目指す。</p> <p>適正な施設の運営や事業内容を検討する運営協議会が今まで開催されていないため、早急に開催し諸課題を協議する必要がある。</p> <p>老人保健施設事業の利用人数は、1 日平均 90 人の大台を超えたが、目標としていた 93 人は達成できなかった。</p> <p>短期入所療養介護事業の利用人数は、目標の 1 日平均 5 人は達成できたが、通所リハビリテーション事業の利用人数は、平均 26.6 人と微減した。</p> <p>居宅介護支援事業の利用人数は、1 カ月平均 54.5 人と微減した。</p>
---	---

《実績》 老人保健施設事業 入所延べ利用人数 33,001 人（前年度比：308 人増）
（内訳：京丹後市 16,981、与謝野町 8,562、宮津市 4,500、その他 2,958）

短期入所療養介護事業 延べ利用人数 1,843 人（前年度比：95 人減）
（内訳：京丹後市 1,840、与謝野町 3）

通所リハビリテーション事業 延べ利用人数 6,802 人（前年度比：95 人減）

居宅介護支援事業 介護給付及び予防給付ケアプラン実績（前年度比：17 人減）
介護給付延べ 654 人、予防給付 52 人

6 . 事業概要 （生活支援事業）

- 1

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
<p>放課後児童健全育成事業 （受託）</p> <p>保護者が労働等で家庭が留守になる小学校児童（小学校 1～3 年生）に対し、放課後の安全を確保し、健全な育成を図る。</p>	<p>平成 12 年 5 月から大宮町の受託事業として取り組み、就労世帯支援と子どもの健全育成事業として充実を図ってきたが、ニーズの高まりや必要性から、市全域での実施や市の直接運営事業となり、本会への受託は本年 7 月 31 日付けで終了となった。</p>

《実績》 開設日（4 月～7 月） 92 日（内訳：通常開設 80、特別開設 12）
月平均登録人数 59 人
一日平均利用者数 40.2 人
4 ヶ月延べ利用人数 3,701 人

- 2

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
相談事業	《 = No . 5 3 》

- 3

事業名及び事業目的	取り組み内容と実績
生活福祉資金貸付事業 低所得者、障害者、高齢者の世帯を対象に、資金の貸付と民生委員による生活支援などにより、経済的自立と安定した生活の推進を図る。	今日の社会情勢を踏まえ、資金について広報を行ったが、貸付件数は少なかった。 京都府社会福祉協議会の債権管理強化推進モデル事業を受け、大宮町域において長期滞納者への聞き取り調査を行ない、生活状況把握や返済についての確認と調整を行った。 また、各単位民協の定例会で資金の意義についての説明と民生児童委員へのアンケート調査を行い、その結果を今後の償還指導のあり方に反映させる。

《貸付内訳》

資金種類	件数	金額
修学資金 就学支度費	3	1,404,000
修学資金 修学費	1	384,000
福祉資金 福祉費	1	237,000
合計	5	2,025,000

- 4

事業名及び事業目的	取組み状況と結果
祭壇等貸付事業（久美浜） 小地域に密着し、自宅で葬儀を希望される方への貸付支援	3基を保有して貸付を実施しているが、民間の葬祭場ができて以来、利用件数は減ってきている。引き続き広報と管理を行うと共に、事業の方向性を検討する。

《実績》 祭壇利用件数 24件（前年度比：13件減）
 礼状利用枚数 1,500枚